

## 会 議 概 要

会 議 の 名 称	第6回新潟市学校給食懇話会
開 催 日 時	令和5年10月4日（水）午後3時30分～4時50分
開 催 場 所	新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」講義室A
出 席 者 氏 名	<委員>赤松 利恵、大坪 研一、坂井 笑美子、佐久間 沙都美、 佐藤 邦栄、村井 康人、村山 伸子、山崎 瑠樹 <オブザーバー>本多 一貴、逸見 東子、渡邊 恵、富張 玲子
事 務 局	池田教育次長、袖山保健給食課長、田中保健給食課長補佐、齋藤指導主事、ほか保健給食課員4名
傍 聴 者	2名
会 議 事 項	<p>1. 開会</p> <p>2. 議事</p> <p>(1)学校給食懇話会提言案について</p> <p>○事務局説明の後、意見交換を行いました。</p> <p><b>【主な意見等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ P1 1. 全体像中の「新潟に愛着や誇りをもつ」について、食育では新潟だけでなく他地域の食材などを知ることも大切なので、敢えて新潟に限った言い方とする必要があるのか。</li> <li>・ まずは自分の育った新潟の食を知り、紹介できるようになることは、子どもにとって意味のあることだと思う。</li> <li>・ 給食を通じて生まれ育った地域の食文化を学び、愛着や誇りを醸成することは必要な視点だと思う。</li> </ul> <p>→「新潟とそれ以外」という印象があるのであれば、「地域に愛着や誇りをもつ」という表現にしてはどうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ P4 (3) その他必要な項目 アに関して、学校給食での食育の推進について明確に示すべきではないか。現状の表記だと「地域と家庭を含めた幅広い」という中に、学校での取組が紛れてしまう印象がある。</li> <li>・ 教職員が同じ理解をもって「チーム学校」として取り組む必要性が分かるよう表記すべきだと思う。</li> <li>・ 家庭での食育の重要性を示す部分の表記について、あまり具体的な取組がイメージできないが、保護者への具体的なはたらきかけの例などが入ると良いのではないか。</li> <li>・ 家庭では、「食育への理解」の前段としてまずは保護者が「食への関心」をもって子育てしてほしいと思う。</li> </ul>

	<p>(2)その他</p> <p>○これまでの議論の総括と意見交換を行いました。</p> <p><b>【主な意見等】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・給食時間の確保について、提言後に具体的なアクションが起こされることを期待するが、例えばモデル実施を通して広げていくなど、多くの現場が受け入れられる工夫をしながら取り組んでほしい。</li> <li>・様々な立場からの意見交換だったが、「子どもたちのために」という共通の目標を共有して議論できたと思う。</li> <li>・オブザーバーの意見や学校視察等を通して、学校現場の思いや様子を踏まえた議論ができた。今後も学校ではぜひ、食を通して生きる力や人間力を育む教育を大切にしてほしい。</li> <li>・公募委員として参加したが、市民意見が反映されることが分かり良かった。</li> <li>・本懇話会の議論の結果として、全員給食を基盤に、楽しく食べることや食育、地産地消も視点として取り入れた提言案にまとめることができたことが良かった。</li> <li>・提言を出した後からが新潟市としてのスタートとなる。より良い学校給食の展開を期待する。</li> <li>・SDGsの“誰一人取り残さない”という基本理念に立脚し、目指す子どもの姿を描いて議論できたと思う。給食時間の確保など、現場との調整が必要なものについてもしっかり取り組んでほしい。</li> </ul> <p>3. 閉会</p>
<p>会 議 資 料</p>	<p>資料1 今後の学校給食のあり方について（案）</p>